

授業に関するアンケート（2017 年度春学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
社会システム学科

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。
概ね授業内容とシラバスとの整合性は保たれていると考えられる。評価は全学平均 3.60 に対して 3.57 とやや低い数値であり、「基礎演習」についてはシラバスとの合致の評価が下がる傾向がみられた。学科全体の統一シラバスという科目の特性上、内容が具体的でないことが問題としてあげられる。 一方、学生がシラバスをよく見ずに選択する学生もいるのではないかとの指摘もあり、履修生にはシラバスをよく参照し履修計画を立てることを求めたい。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
受講生の理解度を確かめながら授業を進められているかについて、受講者数の多いクラスでは評価が低く、少人数の演習クラスでは高くなる傾向がみられた。社会システム学科では、所属する学生数の多さからも大人数クラスの割合が高く、そのことが全学平均 3.31 に対して学科平均 3.26 という数値に反映されている可能性がある。クラス規模と関連づけるデータ分析など、今後検討していただきたい。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。
授業レベルが概ね学生のレベルと合致している評価と考えられる。この項目についても、大規模クラスでは個別の達成度の確認が小規模クラスに対して難しく、レベル設定についても人数が多いほど難しくなるということが指摘されている。平均値に加えてクラス規模との関連など、丁寧な分析が必要と考えられる。
4. 教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
高評価のクラスでは、その理由として、演習クラス等の少人数クラスであったこと、また授業上の工夫としてのコメントペーパーを用いたフィードバック、マナビーの活用などの理由があげられている。本項目についての学科平均は 3.09 と全学平均 3.24 より低い値であり、双方向性のある履修形態の積極的導入は学科の今後の課題といえる。一方、教員コメントからは、入門科目よりむしろ専門性の高い科目で双方向的な学習形態による履修効果が高いことが指摘されている。また、少人数クラスで双方向性の工夫が容易であるとするコメントが教員から寄せられている。双方向性の学習の適性は、授業形態によって異なることから、一様に双方向性の学習形態を推奨するのではなく、個々の科目の適性に応じた授業形態が選択できることが望ましいと考えられる。
5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
評価の高い科目では、コメントペーパー、小テストのフィードバック、反転学習の導入などの工夫があげられている。大規模クラスでのフィードバックの難しさの指摘もあり、クラス規模との関連など、丁寧な分析を求めたい。
6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
講義形式の授業で評価が低く、演習形式の授業では評価が高い傾向があった。パワーポイント、資料の配布、映像の提示等が評価の高い科目での工夫としてあげられた。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。
自主学習課題の提示やグループディスカッション、マナビーでの小テスト等が、評価の高い科目での工夫としてあげられた。学生と教員とで自主学習の認識が異なるとする指摘もあった。学生の積極的な自主学習を促す上で、自らすすんで課題を発見する学習態度の形成も今後の課題としてあげられる。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
マナビーの活用、効果的なパワーポイント等のスライド資料の提示、明快な話し方等の工夫があげられた。

